

平成24年度全国学力・学習状況調査（国・数・理）及び福岡県学力実態調査（社・英）から

田川市立猪位金中学校

項目	国語	数学	理科	社会	英語
学力の傾向	<p>国語Aにおいては、領域別に見ると、言語事項、書くこと、話すこと聞くことが満足できる状況にある。特に書くことの知識「手紙の形式を理解して書く」においては県の正答率を上回り、無解答がない。</p> <p>国語Bにおいては、領域別に見ると、話すこと聞くことに課題がある。</p>	<p>数学Aにおいては、領域別に見ると、「図形」は県平均に比べ満足できる状況にある。</p> <p>数学Bにおいては、領域別に見ると、「図形」は満足できる状況にあるが、「数量関係」に少々課題が見られた。課題があった理由として、数学の学習に対して答えを求めることを第一に考え、なぜそのようになったか根拠をもとに説明することに慣れていなかったことが考えられる。</p>	<p>論述式の問題に対して、よい結果が得られた。</p> <p>領域別では、生物的領域において課題があり、観点別では、知識・理解に課題が見られた。また、問題形式において論述形式で県・全国平均を上回ったのは、昨年度の取り組みで記述説明の活動に重点を置いた指導の成果だと考える。</p>	<p>地理的分野において、世界の国々の地図上の位置や特色について十分に把握できていないという課題が見られた。</p> <p>歴史的分野では、1年生の時に学習した「古代までの日本の様子」について、反復練習をしていく必要がある。社会的事象についての知識・理解の定着に努め、資料を活用した記述問題を解く学習を積み重ねる必要がある。</p>	<p>「長文の読み取り」や「単語の並べかえによる英作文」がよかった。「文法・慣用表現の知識・理解」も県平均に達していた。観点別評価の「言語や文化に関する知識・理解」は県平均を、やや上回っていた。しかし、「20語以上の英作文」では県平均より大きく下回っている。題意を与えられての作文では表現するのに必要な内容を構成する日本語力が必要になってくる。</p>
改善の手立て	<p>改善への対策として、聞くことについては、耳からの情報を聞き取るための訓練を引き続き行う。</p> <p>読むことについては、長い文章を読むことが苦手と感じさせないような手立てを取り入れていたり、卒業までに出会ってほしい本に触れさせたりしていきたい。そして日常の学習の中で、基礎基本を定着させるとともに、思考力、判断力の育成に努めたい。</p>	<p>基本的な計算については、ある一定の基準を設け、それをクリアしていない生徒に対し、個に応じた指導を講じていく必要がある。例えば、何度も同様の問題を解かせ、その解き方を習得させる。また、数学的な表現を用いて説明する問題については、毎日の授業において、答えのみを重視するのではなく、なぜそうなるのか考えさせる。数学的な表現を使って生徒にできるだけ説明させる授業を心がける必要がある。</p>	<p>昨年度に引き続き、目的や考察の記述説明の活動に重点を置く指導をすることで、言語活動の支援を充実させていく。また、各領域において、知識・理解を高めるため個での学びを深める活動に重点を置いて指導していく。</p>	<p>地理的分野に於いては、世界の6つの州の主な国々を地図帳などで位置や特色を調べ、まとめる学習を設定することに重点を置く。歴史的分野に於いては、教科書を使って古代から年表を作成させることに重点を置く。</p> <p>精選問題を繰り返し練習させることで、社会的事象についての知識・理解の定着に努めたい。</p>	<p>県平均を大きく下回った「長文の読み取り」については、モデル文を参考に書きやすい題意の作文から始め、だんだんと語彙数や表現を増やして書くことに慣れさせていきたい。また、決まったパターンの基本文を定着させてどんな題意でも、それを応用して使えるように音読を活用して定着に努めたい。</p>
家庭での支援	<p>本校の課題は、TVやインターネット、携帯電話による通話やメール等の使用時間が県及び全国平均を大きく上回っていることです。この課題の克服として、親子で約束事を決める（各家庭でのノーメディア・チャレンジの継続）など、学習環境を整えることが必要ではないでしょうか。</p> <p>猪位金校区の特徴でもある「地域行事への参加」や「地域の人への挨拶」の質問項目では、毎年県及び全国平均を大きく上回る結果が出ています。このことは、家庭や地域の教育力によって、自他を大切にするという自尊感情（自分のことを大切に思える）の高まりにもつながっているとと言えます。これは財産であり、誇りです。</p>				